

3111

0044-5118

CODEN: DOZAAK

昭和54年(1979)12月

第88卷 第4号

昭和五十四年十二月二十五日発行・毎号二十五日発行

# 動物学雑誌

日本動物学会  
創立100周年記念特集号

第50回

日本動物学会大会号

昭和54年10月18~20日

東京

22867

日本動物学会

東京都文京区東洋文庫内

ISSN 0044-5118

テントウムシ科の系統分類に関する知見の整理なら  
びに *Aspidimerini* 族の位置について

佐々治寛之 (福井大・教育・生物)

Recent contributions to the phylogeny of Coccinellidae, and on the position of the tribe *Aspidimerini*

HIROYUKI SASAJI

テントウムシ科の系統分類については、佐々治 (1968, 1971) の発表以降、それが契機となったと見え、各地で研究が盛んになされるようになった。Phuoc & Stehr (1974) や Iablokoff-Khnzorian (1976) など独自の見解を示すものもあるが、多くは佐々治の体系を基本的に容認し、それを部分的に修正・追加したものである。それらの新しい知見もかなりの量に達したので整理しておきたい。また、*Aspidimerini* 族は *Scymninae* 亜科に所属させていたが、幼虫は *Platynaspini* 族に極めて酷似し、成虫形態にも多くの共通点があり、その他多数の形質を比較検討した結果、*Chilocorinae* 亜科に移し、*Platynaspini* 族の近くにおく方が妥当と考えるにいたった。以上を総括すると次に示すような体系に整理される。

Coccinellidae

- Sticholotidinae*—*Sukunahikonini*, *Sarangiini*,  
*Microweiseini* (Gordon, 1977), *Sticholotidini*,  
*Shirozuellini* (= *Ghanini Ahmad*, 1973).  
*Lithophilinae* (Klaushitzer, 1971)—*Lithophilini*.  
*Coccidulinae*—*Coccidulini*, *Exopiectrini*, *Oryssomini* (Gordon, 1977), *Noviini*.  
*Scymninae*—*Cryptognathini* (Gordon, 1971), *Scymnini*, *Stethorini*, *Cranophorini*, *Hyperaspini*, *Scymnillini*, *Ortaliini*.  
*Chilocorinae*—*Telsimiini*, *Aspidimerini* (from *Scymninae*), *Platynaspini*, *Chilocorini*.  
*Epilachninae*—*Epilachnini*, *Madaini* (Gordon, 1975).  
*Coccinellinae*—*Discotomini*, *Singhikalini* (Miyatake, 1972), *Psylloborini*, *Coccinellini* (= *Tytaspini*, *Bulaeini*, *Savoiskaja*, 1969)

苔虫休芽の海水に対する抵抗性

織田秀実 (立教大・一般教育・生物)

Resistibility of the statoblasts to sea water  
SHUZITU ODA

オオマリコケムシ *Pectinatella magnifica* (Leidy) は1851年にフィラデルフィアで発見されて以来北アメリカ東部一帯に産することが知られ、1883年以降、中央ヨーロッパにも生息するようになった。本邦では1972年に河口湖に突然出現してから精進湖・柴山潟・木場潟・印旛沼と次第に分布が拡大する傾向にある。国内での分布の拡散には釣師たちの移動が関連していることが充分考えられるが、最初どのようにして渡来したかは全く分らない。1880年代にドイツのハンブルク近くにこのコケムシが出現するようになった経緯も明らかではない。船底に付着したスタトブラストが船と共に大西洋を渡り、河を遡航して淡水に入ってから発芽し、増殖したのではないかと推測されているにすぎない。そこでオオマリコケムシのスタトブラスト (1976年10月および1978年8月に精進湖で採取、浸水のまま冷蔵保存) を用いて海水に対する抵抗性を確かめてみた。

1) 海水中では、たとえ希釈したものでも、25°C 明の状態では全く発芽しないが、これを淡水に戻すと殆ど全部が発芽した。2) 海水中に1~3週間浸して冷蔵したものを淡水に戻して25°C 明の状態に保つと、殆どのもが発芽した。3) 海水中に6か月冷蔵したもので淡水中ではかなり発芽した。しかし、海水中で25°C に1週間保つてから淡水に戻した場合には発芽率は相当低下していた。

これらの結果から、船が湖水などに停泊中に幼生が船底に付着し、成長した群体塊に形成されたスタトブラストは、渡洋のため長期間海水中にあっても発芽能力を保持し、淡水に移ってから発芽条件が満たされれば発芽し得る可能性が充分裏付けられる。

20  
20 414 1300  
3VH  
IN/1447  
88.4)

ZOOLOGICAL MAGAZINE (Dobutsugaku Zasshi)

Volume 88, Number 4, December, 1979

Special Issue for

The One-Hundredth Anniversary of

The Zoological Society of Japan

and

Proceedings of

The Fiftieth Annual Meeting of

The Zoological Society of Japan

October 18~20, 1979

Tokyo

THE ZOOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

The Toyo Bunko, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

昭和五十四年十二月二十五日発行・郵号二十五日発行  
学術刊行物